

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月12日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0390500056		
法人名	株式会社 グランツ		
事業所名	グループホームぽっかぽか花巻中央		
所在地	〒025-0055 岩手県花巻市南万丁目1163番地3 (電話) 0198-21-5556		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成21年2月16日	評価確定日	平成21年5月12日

## 【情報提供票より】(平成21年 2月 2日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	13 人	常勤 5 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	7.85 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての		2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費21,000円ほか	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	430 円	昼食	430 円
	夕食	430 円	おやつ	120 円
	または1日当たり	1,410 円		

### (4) 利用者の概要( 2月16日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	79 歳	最高	87 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	高木丘クリニック・とみつか脳神経外科クリニック
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームが所在する地域は小・中学校や市文化会館などがある文教地区であり、近隣住民との挨拶等による身近な付き合いのほか、施設の催しへの見学や保育園児との交流が行われている。また、併設する小規模多機能型居宅介護事業所の利用者・職員との馴染みの関係が築かれ、屋外での焼肉パーティーなど多彩な行事を両事業所が連携して実施するなど、職員と利用者は楽しみや喜びを分かち合いながら過ごしている。職員は毎日目標を立てて、共通認識のもとに利用者の生きがいや活力を引き出すことを意識しながら、日常の活動やレクなどを利用者と一緒にしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で話題となった災害対策の避難訓練は、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と一緒に実施し、併せて消火訓練も行うなど安全対策に取り組んでいる。また、夜間訓練も含めた避難訓練については、今後、地域住民の協力を得られるよう連携を深めたいとしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員の意見を聞きながら、施設長が自己評価票を作成している。外部評価については、職員は周知しており、月例ミーティングで話し合い改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2ヶ月ごとに開催しており、事業所で実施した紅葉見学などの事業所の活動や利用者の状況を報告するほか、委員等の意見や要望を聞いて、介護サービスの運営に活かすように努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月、サービス計画書や、請求書、金銭管理票を送付しているが、その際利用者の暮らしぶりについてお知らせしている。また、家族が来訪した際にも、ホームでの日々の暮らしの様子を報告するほか、面会の少ない家族にはサービス計画書などの送付の際に、面会への呼びかけをしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日頃は、散歩や買い物などの際に地域の方々と挨拶を交わしている。また、推進会議のメンバーである民生委員の協力で市民文化会館の郷土芸能など催し物を見学したり、近くの保育園の園児をホームのクリスマス会などの行事に招いて交流を深め、ホームへの理解が得られるよう努めている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

確定日 平成21年5月12日

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時に全職員で話し合い、利用者が地域の中でその人らしく暮せるよう支援するための、事業所独自の5つの理念をつくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝・晩の申し送り時や、毎月のミーティングでの具体的な支援の経過等の話し合いを通じて理念を活かす取り組みをしている。また、新人職員には理念を明記した研修マニュアルを配布するなど理解に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日頃は、散歩や買い物などの際に地域の方々と挨拶を交わしている。また、推進会議のメンバーである民生委員の協力で市民文化会館の郷土芸能など催し物を見学したり、近くの保育園の園児をホームのクリスマス会などの行事に招いて交流を深め、ホームへの理解が得られるよう努めている。	○	推進会議の構成員である民生委員を中心に、地域住民や老人クラブ、近くの小・中学校との交流を持ちたいと話合っていることから、今後の取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の意見を聞きながら、施設長が自己評価票を作成している。外部評価については、職員は周知しており、月例ミーティングで話し合い改善に向けて取り組んでいる。	○	評価は、一連の過程を全職員で取り組むことにより、ケアに対する職員の意識合わせが可能になることから、サービスの質の向上のためにも、全職員で理解を深められるような取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で2ヶ月ごとに開催しており、事業所で実施した紅葉見学などの事業所の活動や利用者の状況を報告するほか、委員等の意見や要望を聞いて、介護サービスの運営に活かすように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア会議や地域事業所連絡会に参加し、包括支援センターと情報交換を行い連携を図っているほか、ホームのパンフレットを配布しホームの内容について理解を頂くよう説明している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、サービス計画書や、請求書、金銭管理票を送付しているが、その際利用者の暮らしぶりについてお知らせしている。また、家族が来訪した際にも、ホームでの日々の暮らしの様子を報告するほか、面会の少ない家族にはサービス計画書などの送付の際に、面会への呼びかけをしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を設置しているほか、家族会や、運営推進会議での話し合いなど、それぞれの場面で意見や不満を表せる機会を設けており、出された意見等は検討して運営に活かすよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同じ建物に小規模多機能型居宅介護事業所を併設しており、職員はどちらの利用者とも馴染みの関係になっている。新しい職員を採用する場合は経験者と一緒に利用者に関わるようにして、利用者には不安を与えることのないように、またスムーズに顔なじみになりやすいように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画は立てていないが、随時外部の研修への参加を促し可能な限り参加に結び付けている。受講後は月例のミーティングで伝達研修を行っている。また内部研修として、課題を設定し月例のミーティングで勉強会を開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケアサービス事業所連絡会に加入し情報交換を行う機会としている。また、同法人はほかにグループホームを運営しており法人内でのホームの交流を図り、サービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学や、併設する小規模多機能型居宅介護の各サービスを利用しながら、本人が安心して利用できるよう対応に努めている。また、入居後は馴れるまで利用していた介護サービスのスタッフが会いに来るなど、これまでの本人との関係を断ち切らずに、ホームに馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野を活かして枝豆や、トマト、キュウリ、とうもろこしなどの野菜づくりや漬物づくりを学んだり、料理の味付けを頼んだり、掃除を一緒に行うなど、共に過ごすなかで支え合いながら生活をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族から生活歴を聞き取るほか、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、日ごろの行動や表情から把握し職員で話し合いながらケアに活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族から希望を聞いたり、日頃の本人の身体状況を観察し支援の結果について月例ミーティングで職員全員で検討して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月例ミーティングで定期的な見直しを行うほか、体調不良等により状況が変化した場合は、家族や関係者と話し合いを行い実情に即したケアの見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の希望により、行きつけの理美容の利用や、買い物に出かけたり、お墓参りに行く際に支援をしている。また、一時帰宅の際には、送迎や投薬の確認など安心して家族と過ごすことのできるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にして、ホームを利用する前からのかかりつけ医を利用している。なお、変更する場合は本人・家族の同意を得ており、医療が適切に受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の利用者対応については、スタッフ会議にて全員で方針を共有し、また家族の意向を聞いて状態に変化があるごとに、家族と連絡をとるとともに、医療機関へ相談しながら支援している。なお、医療連携加算をとっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉づかいや日常の対応について、認知症マニュアルを活用して研修しプライバシー確保に心がけている。また、契約時に個人情報の使用同意書を取り交わし、使用した場合は記録している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の希望に添って理美容に行ったり、買い物やドライブに行ったりしている。また、健康状態を維持するために規則正しい生活を基本としているが、起床または就寝時間にとらわれず、本人のリズムを考慮して支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を取り入れて作成し、日頃は調理や盛り付け、下膳などを職員と一緒にやり、同じテーブルで職員も食事をして楽しめるように工夫している。ある時には季節料理、寿司等の外食、正月にはお膳のおせち料理にするなど食事が楽しみとなるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が可能であるが、週3回の入浴を基本としている。入りたくない時など、時間をおいて声がけをするようにしたり、併設の事業所のお風呂に入浴するなど、対応を工夫しながら、利用者が気持ちよく入浴できるように支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜づくり、花壇の手入れ、食事の調理と後始末、洗濯たたみなどを、利用者が日々役割を持って楽しく過ごせるように、体調や意欲を見極めながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望に応じて、事業所周辺の散歩、スーパーやたい焼き屋さんなどへの買い物、紅葉狩りのドライブなどに日常的に対応支援している。また、居室にこもりがちな利用者には買い物などに誘い気分転換が図れるように努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは小規模多機能型と併設し、ホームは2階にあり、夜間は防犯のため鍵をかけているが、日中は鍵をかけていない。また、小規模多機能の職員と連携して見守りをお願いしているほか、階段前にセンサーを設置して人の出入りを確認している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の事業所と年二回の避難訓練を実施する計画を立てている。消防署の立会いで、火元を台所と想定し非常階段を使用して中庭に避難する訓練を実施するほか、消火器の使用訓練を行っている。	○	日中の訓練を行っているが、今後は夜間を想定した避難訓練の実施も大切と考える。その際は、地域の支援協力が非常に重要と考えることから、運営推進会議等を通じて近隣住民の協力を得る仕組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立は、法人の栄養士が定期的にカロリー計算をして栄養のバランスをとっている。水分・栄養摂取量が個別に必要な利用者については、状況を記録し確保できるように対応している。また、利用者の状況によっては、とろみやミキサー食等を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は台所と接し、調理する音やご飯の炊ける匂いが生活感として、小上がりや廊下の壁には利用者の行事の写真や水木団子を飾り季節感を取り入れている。不快な音もなくゆったりと過ごせるよう工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用の際は、家族に使い慣れた馴染みの調度品を持参してもらうように話し、家族と本人、職員が一緒になって飾り付けをし居心地よく暮せるように工夫している。		